

演題名：科学と臨床をつなぎ認知症の治療と共生を実現する

演者名：岩坪威、新美芳樹、山田薫、佐藤謙一郎、西山里瑳、西田達、中島紗樹、森田瞳、山崎夢芽、今村玲音、島崎正美、金城美奈子、坂口知子、坂本亜沙美

【背景】認知症は世界で増加しており、その理解と克服が喫緊の課題となっている。2023年抗アミロイドβ抗体薬がアルツハイマー病(AD)に対する最初の疾患修飾薬として臨床実用が開始されたが、実臨床下でのリスク・ベネフィットバランス、バイオマーカーを利用した診断と対象者のコホート化、脳からの病因タンパク質の除去経路の解明と活性化等新規治療方策の開発など、解決されるべき学術的課題は多い。

【目的】認知症の課題解決を図るとともに、2023年成立の「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の精神に則り、認知症の人を含むあらゆる関係者の理解と協力のもとに研究を発展させる。

【方法】認知症の臨床研究と基礎研究を結集し、アルツハイマー病を中心とする認知症性疾患の病態解明およびその成果に基づいた新規の予防・治療法の創出と実用化を進める。

#### 〔基礎研究分野〕

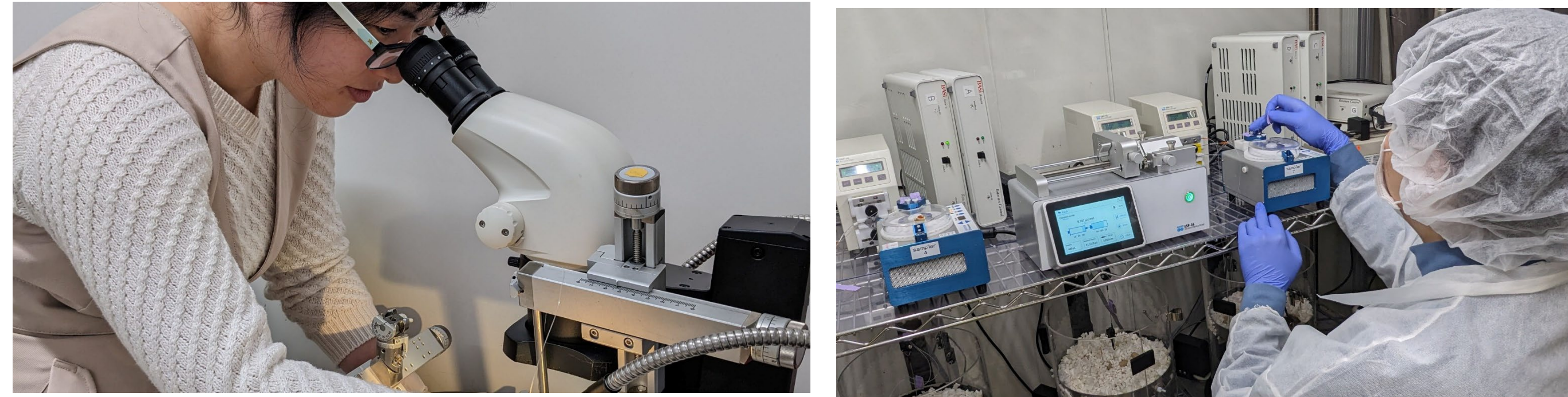
脳内で起こるタンパク質の異常動態を解明し、アルツハイマー病をはじめとする神経変性疾患の新規治療法の創出を目指す

#### 〔臨床研究分野〕

基礎研究の成果を新しい予防や治療法の創出と実用化につなげ、共生社会を進めることができるよう、臨床研究を推進、PPI(患者・市民参画)・PPP(産官学民連携)を推進

(研究場所と内容) 医学部3号館5F

- ・タウタンパク質などの細胞外動態の解明
- ・脳と免疫系のクロストークの理解
- ・グリンパティック系や髄膜リンパ系を含む“脳の排出システム”の研究
- ・クリアランス不全が認知症に与える影響の解明



実験の様子

(研究場所と内容) 附属病院B棟13F

- ・臨床研究推進センターや関係各科と連携し各種治験を実施
- ・AD超早期対象の前向き観察研究、治験即応コホート等の各種レジストリ研究(J-TRC、PAD-TRACK等)を実施
- ・ADNI、NACC、JADER等公開データベースを利用しデータドリブン研究を実施



臨床研究の様子

NIPRO、キャンノンメディカルシステムズ、イーライリリー、メットライフ財団、ロシュ・ダイアグノスティクス・インターナショナルと共同研究を実施

スタッフ:(教員)山田薫、岩坪威(研究員)西山里瑳、西田達(学部学生)森田瞳、山崎夢芽(技術専門員)金城美奈子、坂口知子、坂本亜沙美

スタッフ:(教員)新美芳樹、佐藤謙一郎、岩坪威(大学院生)中島紗樹(技術専門員)今村玲音、島崎正美

設置期間

2025年2月2日～2030年1月31日

寄附者

エフィッシモ・キャピタル・マネジメントPte Ltd

協力講座

脳神経外科、神経生化学分野

※寄附者はH26-30年に東京大学公共政策学連携研究部に寄附研究部門「経済成長とリスクマネジメント」を設置、その後も東大本部(社会連携本部渉外部門)を通じて公益性の高い研究事業への支援を志向されてきた。認知症を研究テーマとする本寄附講座の構想についてR5年より協議し、これが寄附者の方針とよく合致したことから、R7年2月から寄附講座を設置することとなった。